

広島港湾・空港整備事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

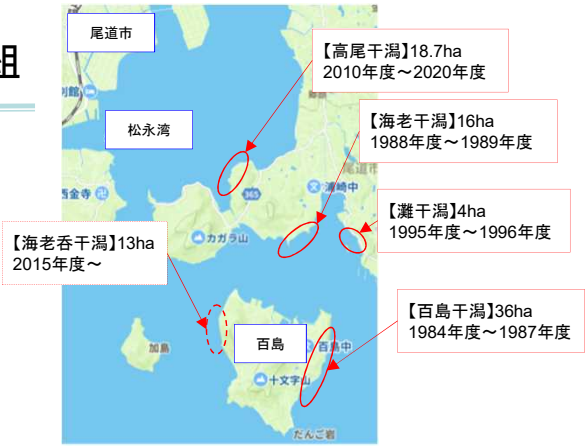
私ども広島港湾・空港整備事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、広島県内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図っています。



尾道系崎港 干潟・藻場再生への取組

高度経済成長期に、瀬戸内海沿岸地域の浅瀬の多くは工業地帯などへ姿を変え、自然の干潟や藻場は少なくなりました。そこで、1980年代から尾道系崎港の航路整備により発生した浚渫土砂を有効活用して干潟・藻場の再生に資する取り組みを行いました。

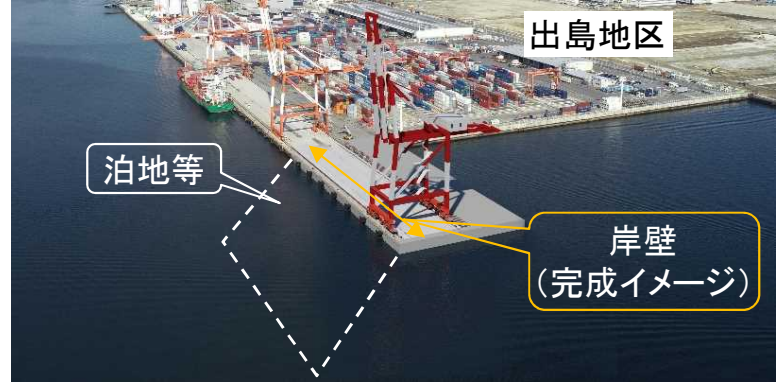
今後も百島海老呑(ももしまえびのみ)地区において、より良い環境創造、自然再生を目指して、浚渫土砂を有効に活用した干潟や藻場の再生に資する取り組みを進めて参ります。



でじま 広島港出島地区国際海上コンテナターミナルの整備

広島港出島地区では、コンテナ船の大型化に対応するため、岸壁や泊地等の整備を行っています。

整備の効果として、部品等の大量輸送が可能となることによる背後企業のサプライチェーンの強靱化と安定的な物流網の確保、地域産業等の振興による経済の持続的な発展及び海上輸送距離の短縮によるCO₂排出量の減少等が期待されます。



※泊地: 港湾内で船舶が安全に停泊することができる水面のこと。

広島港湾・空港整備事務所におけるSDGsの達成に資する取組について



広島港海岸の整備

広島市街地は、沿岸域に人口や資産が集積していますが、台風にともなう高潮により、広範囲にわたり度々被害を受けてきました。特に2004年の台風18号襲来時は、高潮による浸水に加え、護岸の倒壊などもあり、被害が拡大しました。このような高潮被害や、大規模地震による液状化及び津波から市民を守り、誰もが安全に安心して暮らせる地域を実現させるため、護岸の改良などを行っています。



整備前



整備後



見学会・出前講座の実施

広島港湾・空港整備事務所では、「みなと」について関心を持ってもらい、「みなと」の役割や重要性を理解していただくために「広島みなと親子見学会」、「出前講座」を実施しています。

広島みなと親子見学会、出前講座では、「みなと」がどのようなものなのか、どのように利用されているのかといったことを学んでいただけるよう、座学だけでなく、港湾業務艇「りゅうせい」に乗船し、海の上から「みなと」を見学するといった取り組みを実施しています。

【目標】 2022年度:3回/年 → 2024年度:5回/年



広島みなと親子見学会の様子
(港湾業務艇「りゅうせい」にて)



出前講座の様子



みなとオアシスでの取組

みなとオアシスでは、訪れる人たちにとって快適で利用しやすい施設の形成に向けた取り組みを実施しています。

クルーズ旅客等訪日外国人旅行者がストレスなく快適に観光を満喫できるようにみなとオアシスでは、多言語観光案内標識の整備、多目的トイレの設置などに取り組んでいます。

【目標】 毎年度:必要箇所



多言語観光案内標識の整備
(みなとオアシス潮待ちの港 鞆の浦)



公衆トイレの改修
(みなとオアシス三原)